

2022年11月18日

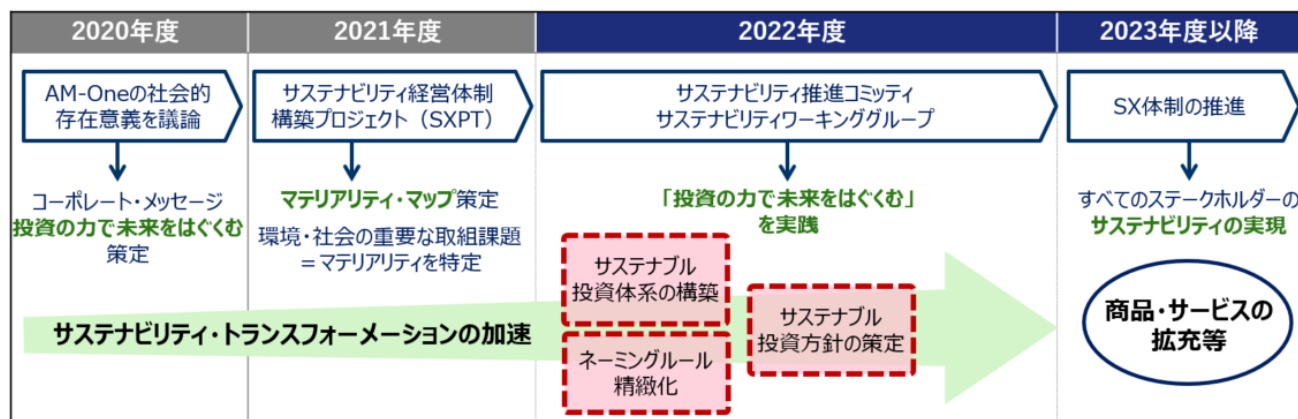
アセットマネジメントOne株式会社

## サステナブル投資方針の策定について

アセットマネジメントOne株式会社（東京都千代田区、取締役社長 菅野 暁、以下「AM-One」）は、2021年1月にコーポレート・メッセージ「投資の力で未来をはぐくむ」を制定して以降、サステナビリティ推進体制の強化等サステナビリティ・トランスフォーメーション（SX）を加速させております。

先般、「サステナブル投資体系」を構築したことを公表しましたが、このたび、これまで重点的に取り組みを強化してきた「ESGインテグレーション」及び「スチュワードシップ活動」に加え、「ポジティブな社会的インパクトの創出」、「持続可能な社会へのトランジションの後押し」、「エクスクルージョン」を新たな軸とし、AM-Oneの「サステナブル投資方針」を策定しましたのでお知らせいたします。

<AM-OneのSXロードマップ>



今回策定した「サステナブル投資方針」は、「投資の力で未来をはぐくむ」を掲げるAM-Oneが、持続可能な地球環境・社会を実現するための投資行動を定めるものです。グローバルな環境・社会課題をダイナミックに捉え、コア・マテリアリティを特定したAM-One独自のマテリアリティ・マップを羅針盤として、強い覚悟を持って投資方針で定めた「「投資の力で未来をはぐくむ」5つのアクション」を推進します。

## <サステナブル投資体系>

※ [NEWS RELEASE 「サステナブル投資体系の構築とESG関連ネーミングルールについて」\(2022年10月31日付\)](#)

新しいサステナブル投資体系のもとでは、ソーシャルリターン、社会や環境の課題解決を主要投資目的に据え、優れた企業に積極的に投資する「インパクト投資」や、フィナンシャルリターンを重視するものの、サステナブルな社会の達成に資する「エクセレントカンパニー」に投資する「ESGリーダー」のほか、自己変革に取り組む途上の企業を支援する「トランジション」、運用プロセス上でESGリスクや機会を考慮する「ESGインテグレーション」等、様々なカテゴリーを設けました。

カテゴリー	サブカテゴリー	ファンドの特徴
インパクト投資	インパクト・ジェネレーティング	・フィナンシャルリターンを目指しつつ、ソーシャルリターン（インパクト）創出目標を設定し、持続可能な社会に向けた課題解決に直接的に貢献する
	インパクト・アライン	・フィナンシャルリターンを目指しつつ、企業の取組や事業を通じて持続可能な社会に向けたポジティブなインパクトを与える
ESGリーダー		・持続可能な社会に資するエクセレントカンパニーに投資
トランジション		・持続可能な社会に向けたトランジションに積極的な企業に投資 ・ESG取組の改善が期待できる企業に投資
ESGインテグレーション		・ESGリスクと機会（もしくはどちらか）が特定され、運用プロセスに考慮されている

## <アセットマネジメントOne サステナブル投資方針>

### ●サステナブル投資の基本的な考え方

AM-One は、アジア有数の資産運用会社として、AM-One の投資行動がグローバルな環境・社会に与える影響は小さくないと認識しています。また、持続可能な社会の実現が、お客さまの中長期的な投資収益の拡大のために不可欠であると考えています。

こうした考えに基づき、コーポレート・メッセージ「投資の力で未来をはぐくむ」資産運用会社として、受託者責任を踏まえサステナブル投資を積極的に推進します。

本方針は、AM-One が運用する全てのプロダクト（運用権限を外部に委託しているものも含む）においてお客さまのご意向を踏まえて順次適用され、投資対象資産・地域及び投資戦略の特性に応じたサステナブル投資を実践します。

### ●投資の力で未来をはぐくむ 5 つのアクション

#### 1. ESG インテグレーション

AM-One は、財務情報のみならず、E（環境）・S（社会）・G（企業統治）要素等の非財務情報も適切に考慮して、投資対象の分析や投資判断を行います。マテリアリティ・マップにて特定した重視すべきグローバルな環境・社会課題を踏まえ、運用プロセスに ESG 要素を組み込むこと（ESG インテグレーション）により、ESG 要素に起因する「投資機会」と「投資リスク」を適切に捉え、健全なリスク調整後リターンを追求します。当社のインテグレーションはフィナンシャル・マテリアリティだけでなく、社会にとってのマテリアリティであるサステナブル・マテリアリティも重視し、インテグレーションされたポートフォリオ構築においては、それら課題に対する企業の取組みレベルを評価することから、ESG インテグレーションを通じて持続可能な社会の実現に寄与できると考えます。

## 2. ポジティブな社会的インパクト創出を目指す投資

AM-One は、マテリアリティ・マップにて特定した重視すべきグローバルな環境・社会課題に対して、ポジティブな社会的インパクトを創出するための投資に取り組めます。また、インパクト投資については、その投資の成果として創出したインパクト（ソーシャルリターン）を計測し、同時に追求するフィナンシャルリターンとともに情報開示を行います。

## 3. 持続可能な社会に向けたトランジションを後押しする投資

AM-One は、マテリアリティ・マップにて特定した重視すべきグローバルな環境・社会課題の解決に向けて積極的に行動する企業等への投資を通じて、持続可能な社会に向けたトランジション<sup>※</sup>に資する技術開発・イノベーションや企業の行動変革を支援します。

※AM-One のトランジションの定義は、化石燃料から再生可能エネルギーへの移行だけでなく、その他の環境・社会課題における企業の行動変革や技術革新によって期待できる企業および社会のトランジションも広く含むものです。

## 4. スチュワードシップ活動（エンゲージメント・議決権行使）

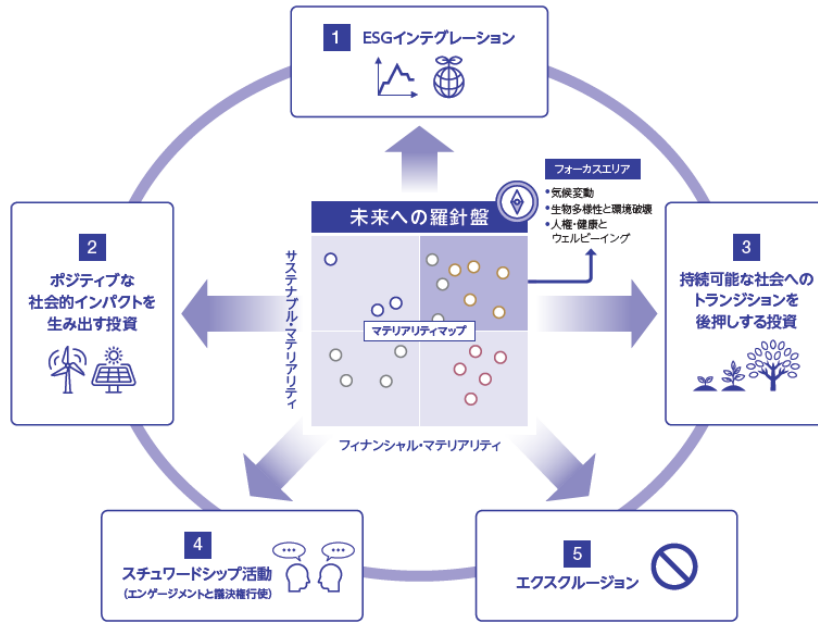
AM-One は、マテリアリティ・マップにて特定した重視すべきグローバルな環境・社会課題について投資先企業に期待する取組水準を定め、投資先企業または運用外部委託先との建設的な「目的を持った対話」（エンゲージメント）や、投資先企業への議決権行使または運用外部委託先の議決権行使基準の確認および議決権行使結果のモニタリングを行います。こうしたスチュワードシップ活動を通じて投資先企業に寄り添い、企業価値向上と持続可能な社会の実現に向けた取組を促します。

## 5. エクスクルージョン

AM-One は、マテリアリティ・マップにて特定した重視すべきグローバルな環境・社会課題について期待する水準の取組みがなされるよう、スチュワードシップ活動により投資先企業または運用外部委託先にエンゲージメントしていくことを特に重視しますが、これらの活動をしていながらも、サステナブル投資体系のカテゴリーに応じた基準と照らして評価をし、期待する最低水準を満たさず且つ改善の見込がない企業または運用外部委託先に対しては、投資または運用権限の委託を見合わせます。

AM-Oneは、これらのサステナブル投資に関する方針や取組事項について、国内外の動向も取り入れ適時適切にアップデートし、サステナビリティレポートやホームページ等にて積極的に情報発信します。また、政府・国際機関や各種団体等が主催するサステナブル投資に関するイニシアティブに参画し、積極的に意見表明することで、サステナブル投資の普及促進に努めてまいります。

「投資の力で未来をはぐくむ」5つのアクション



フォーカス エリア	エクスクルージョン基準	インパクト投資 ジェネレーティング アライ	ESGリーダー	トランジション	ESG インテグレーション	その他の アクティブファンド
気候変動	一般炭の売上が全体の20%以上で、具体的なネットゼロに向かう縮減・撤退計画がない	×	×			
	石炭火力発電の売上が全体の20%以上で、具体的なネットゼロに向かう縮減・撤退計画がない	×	×			
	非在来型オイル&ガス*の売上が20%以上で、具体的なネットゼロに向かう縮減・撤退計画がない	×	×			
	GHG重要セクターに属しながら、カーボン排出削減コミットメント、削減目標、情報開示等がなく、改善姿勢を示さない	×	×			
生物多様性 ・環境破壊	事業活動により生物多様性に深刻な影響を与える行為が企業活動もしくはサプライチェーンで発見され、改善に向けた取組みも確認できない	×	×			
	パームオイルの搾油において、環境破壊・人権侵害が行われており、改善に向けた取組みも確認できない	×	×			
人権 健康&ウェル ビーイング	児童労働、強制労働、人身取引への関与、ILO条約違反、UNGC規範の人権・労働規範、OECD多国籍企業ガイドラインに著しく抵触する行為が企業活動もしくはサプライチェーンで発見され、改善に向けた取組みを確認できない	×	×			
	当社のエンゲージメント対象企業で、女性取締役不在にもかかわらず、具体的な登用検討もされていない	×	×			
	ダイバーシティで差別等の不祥事があり、改善に向けた取組みも確認できない	×	×			
	非人道兵器への製造関与が確認された企業**	×	×	×	×	×

\* 非在来型オイル&ガスは、オイルサンド、オイルシェール、シェールガス、コールベッドメタン、炭層ガスが対象

\*\* 除外対象：クラスター爆弾、対人地雷、生物兵器、化学兵器、劣化ウラン弾、焼夷弾、ブラインドレーザー、検出不能な破片を利用する兵器

※AM-One はエンゲージメントを通じて改善を促すことを重視しているため、単に閾値を決めて投資除外とするのではなく、エンゲージメントにより改善を促してもなお、サステナブル投資体系のカテゴリーに応じた基準と照らして評価をし、期待する最低水準を満たさず且つ改善の見込がない企業または運用外部委託先に対してのみ、投資または運用権限の委託を見合わせます。

※なお、運用権限を委託しているプロダクトについては、各投資対象資産・地域、及び投資戦略の特性に応じて、本基準の各項目を基本軸とした上で、総合的に判断してまいります。

※AM-One は、フォーカスエリア（気候変動、生物多様性と環境破壊、人権、健康とウェルビーイング）の領域で、最低限の行動基準を満たさない企業への投資行動、エンゲージメントおよび議決権行使の在り方を定め、ファンドの特性に応じて順守しています。

## 【アセットマネジメントOneについて】

アセットマネジメントOne株式会社は、DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社の資産運用部門、みずほ投信投資顧問株式会社及び新光投信株式会社（以下、総称して「統合4社」）が統合し、2016年10月1日に発足した資産運用会社です。「投資顧問事業」と「投資信託事業」の双方の事業領域における運用資産残高は約60兆円と国内有数の規模を誇ります。統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、資産運用のプロフェッショナルとして、グローバル運用リサーチ体制に支えられた伝統的資産のアクティブ運用や金融工学を駆使した最先端の運用戦略等、個人投資家や機関投資家の多様な運用ニーズに対し、最高水準のソリューションの提供をめざします。

HP : <http://www.am-one.co.jp/> ※運用資産残高は2022年3月末時点。

商号等 / アセットマネジメントOne株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号

加入協会 / 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会